

令和元年度「町長と語る会」概要

日 時	令和元年7月22日（月）午後7時00分～午後8時30分
場 所	下諏訪総合文化センター 小ホール
テーマ	「子どもを産み育てやすいまちづくり」
パネリスト	下諏訪町PTA連合会 子育て委員長 友野 あいさん だっこの会推進委員会 委員長 岩井 藍子さん 下諏訪第三野球部 代表兼監督 直井 賢治さん 前下諏訪町教育委員会 教育長職務代理 関 眞知子さん

（パネリスト）

- ・集中豪雨や川の氾濫、土砂災害など、子どもだけの留守番中に、避難が必要になる事態を考えると、気が気ではありません。全戸に防災ラジオを配布していただき、子どもに呼びかけるような内容の放送もしてほしいと思います。
- ・小学生の見守りの放送が平日流れていますが、とてもいいことだと思っています。今後どういう展開をしていきますか。

（町 長）

- ・日頃から、子どもに自分の身を守るということを伝えて、約束ごとを決めておくことが大切だと思います。子どもであっても、自分の身を守る行動を取ってほしいと思います。
- ・防災士や地域の皆さんが、地域の防災計画やマップを作成しています。今年度、町でもハザードマップを配布します。そういったものを基に、地域の実情を家族で話し合うことが必要だと思います。
- ・以前、町で補助をして、防災無線が聞こえるラジオを斡旋しました。在庫がありますが、今後、完全なデジタル化に移行した際には、現在のアナログラジオは使えなくなります。
- ・騒音の苦情も鑑みながら、子どもの言葉で伝える必要がある情報は、対応を検討したいと思います。

（パネリスト）

- ・北小学校のエリアは、友達同士で遊んだり勉強する場所が少なく、社中学校では部活動も少なく、好きなスポーツを選択できない状況です。

（教育長）

- ・今年度は、下諏訪中学校と社中学校の合同サッカー一部で、中体連に参加しています。ただし、単年度の合同は校長どうしが決めることになっていて、流動的です。町の校長会では、個々の相談を受けて、他校との合同チームの可能性などを話し合います。子どものニーズがありましたら、直接校長先生にお話してください。
- ・小学6年生の相談についても、町内の校長会で中学校に伝わりますので、実現するかどうかが難しい問題がありますが、学校にお知らせください。

（パネリスト）

- ・「ノース下諏訪」と「なぎがまコミュニティ」のコミュニティスクールでは、子どもと地域を結ぶ役割として、読み聞かせや相撲交流などに協力いただき、いい関係ができています。児童数が減少して部活動も成り立ちにくくなる中で、通学区の見直しについては、どう考えていますか。

（会 場）

- ・中学校の数を見直してはどうでしょうか。特に社中学校は、とがわ保育園、北小学校と、ほぼ同じ子ども達が行きますが、中学校に行くと、他の小学校の子と新たに交わる緊張

感がありません。

(町 長)

- ・通学区については、地域の皆さんの理解が必要です。議論を始めるにしても、どういった理由で議論を始めるのか明確にして、教育委員会と行政が一緒になって地域の皆さんと話し合いを積み重ねていくには、2年、3年という時間が必要だと思っています。
- ・現在の2校体制に至るまでには、色々な変遷を経て、地域の皆さんが望んで、そうしてきた歴史があります。そういったことも鑑みながら、検討しなければいけないと思っています。
- ・学校を減らすことを前提にせず、子どもにとって、どういった学校環境が理想的なのか議論しなければいけません。子どもの数が少なくても、いい教育をしている学校もあり、必ずしも数だけを比較してはいけないと思っています。

(パネリスト)

- ・礼節や規律、あいさつを大事にしています。町の施設を利用させていただいていることに応えるためには、あいさつしかないと選手に話しています。
- ・上手で器用な選手ではなくて、強い選手、強い人間になってもらいたいと思っています。
- ・下諏訪中学校の外部コーチをしていたときに、3校で合同チームを作りました。今でも上諏訪と原村の子が寄ってきますし、本当にいい経験でした。できれば、合同チームを作る場合は、町内の学校の中で組めるようお願いしたいと思います。

(町 長)

- ・学校と部活動が社会体育と協力していくことが求められていると思います。地域全体で部活動やクラブ活動を支えるような形ができたらいいと思います。スポーツに限らず、吹奏楽や合唱などについても必要なことだと思っています。

(パネリスト)

- ・「だっこの会」に参加して、仲間ができたことで世界が広がりました。下諏訪町は未就園児の活動が充実していて、保育園や「ぼけっと」の先生達が親身になってくださり、素敵な場所になっています。
- ・小学生以上の子どもが、安心して集える児童館のような場所があったらいいと感じています。子どもだけで安心して過ごせる場所があれば、共働き世帯には嬉しいことだと思います。

(町 長)

- ・下諏訪町は自然環境に恵まれていて、昔は上級生が下級生の面倒を見ながら野球をしたり、山や野原や砥川で遊んだものです。昔のように子どもが遊べたら、という思いはあります。施設については、子どもの成長にとって、どういった環境を作ることがいいのかを考えなければいけないと思っています。
- ・赤砂崎公園が今年度内に完成しますが、自然の中で遊べる環境作りをしています。また、艇庫の改修を計画していますが、子どもからお年寄りまでが楽しめるような場所にしたと思っています。そういったところも活用いただき、できるだけ自然の中で安全に遊べるような環境作りをしていきたいと思っています。
- ・「ぼけっと」について、土日だけ小学生に開放するようなことが可能か、検討したいと思います。
- ・改築中のイオンの中に「ぼけっと」のようなスペースを設置する予定です。皆さん方のご要望をお聞きしながら、進めていきたいと思っています。

(パネリスト)

- ・ 特別学級に通う子どものお母さんから、周囲の目が気になって外出も楽しめない、気になることがあっても相談できないという話を聞きます。自閉症や発達障害のある子も、保育園や小学校に専門家が入ることで、一般の学級で過ごす環境を作っていたら、と考えています。小さいときから障がいのある子と関わり、それぞれの役割や立場を見出していく環境を作れたら、障がいのある子も自己肯定感を得て、家族や周囲が当たり前のように個性として捉えて支え合うことで、豊かなまちになると感じています。そういった体制づくりについて、町としてどういうことが可能ですか。

(教育長)

- ・ 町では、各学校で特別支援教育児童生徒支援員を臨時的に任用しています。専門性のある方で、支援員や学級をサポートしてくれる方の存在が大事になりますので、ご協力いただければありがたいと思います。

(パネリスト)

- ・ 引っ越してきて、どれくらいの年齢の子がどの辺にいるのか分からない状態でした。困ったことがあったら聞ける場所や、保育園児も小学生も集まれるような機会がほしいと思いました。

(町長)

- ・ ボランティアの居場所作りで、浮島で遊ぶなどの事業が行われています。そういった機会を活用してはどうでしょうか。
- ・ 地区の行事やお祭りは、いいきっかけだと思います。積極的に子どもに参加してもらい、張り合いを持ってできるような仕事も与えるように区長さん達にもお願いをしています。

(パネリスト)

- ・ まず親が参加しなければいけないと思います。お祭りがあるからと言っても、たぶん子どもだけでは行きません。最初は一緒に行って、その次は、お母さん行かなくていいよ、と言うかもしれません。楽しかったよ、と言うかもしれません。きっかけは、家庭の中で地域に送り出す、一緒に行くことかなと感じました。

(パネリスト)

- ・ スポーツもあいさつも100点満点はない訳で、誰かに認めてもらおうと思ってやるなら、やらない方がいいと思っています。勝つことより勝つための準備が大切で、礼節や規律がそういうことだと思っています。そこがしっかりできたときは、必ずいいチームになっていきます。

(町長)

- ・ 子どものあいさつに勇気付けられて、嬉しく思っている町民は多い。地域社会にも責任があり、あいさつをされたときに、こちらが返しているかどうか。子どもと地域で会話ができれば、あいさつが生きてくる。子どもにあいさつをされたら、返してあげるような地域であってほしい。私達が子どもにちゃんと向き合っただけで対応することが、大切だと思います。

(パネリスト)

- ・ 普通のクラスでは過ごしにくい子どもにも、学校は対応しています。状況によって、先生がずっと待っていたり、付きっきりで支援しています。小中学校では、皆さんの支援がありますが、その子達が卒業して成人するまで、色々な課で連携してどこまでサポートできますか。

(町 長)

- ・色々な課に行かなければいけない状況もありますが、基本的には教育委員会の中で、成長まで見ることができると思います。そういったものもワンストップで対応できるように、情報発信していかなければいけないと思っています。
- ・給付型の奨学金制度を作りました。どんな家庭環境であっても、均等に教育を受けていただき、金銭的にもサポートする体制を作っていかなければいけないと思っています。学校や保育園から上がってきたものは、サポートする体制ができていますから、困っていることがあれば、気軽にご相談いただきたいと思っています。

(パネリスト)

- ・下諏訪は歴史ある町ですが、子どもに、こんなところがあるんだよ、って言ってあげるために、親も関心を持たなければいけないと思います。参観日に歴史を教える講座があり、大人が聞いたら面白いだろうな、というものもあったので、参観日を利用しながら、地域の皆さんにお願いするのもいいと思います。

(町 長)

- ・三角八丁は、地域の皆さんに歴史や文化を知ってもらうために始めたイベントで、子どもが参加することで、ここにこんなものがあるな、ということが分かってきたと思いますが、もう1歩進められたらと思います。例えば相楽塚など、歴史を教えるようなことができないか、詳しい方々のご意見をいただきながら、工夫できる点は検討したいと思っています。

(パネリスト)

- ・未就園児がいる家庭で、お母さんが文化センターの講座や、地域のイベントに行こうとしても、託児がなく、参加しても子どもが気になって集中できないとの話を聞きます。お母さんが少しの間、講座に集中できたり、息抜きできたり、自分のために使う時間が子どもと関わる時間を充実させていくと感じています。お母さん達が楽しめる講座には、託児を充実させると、子育てがしやすい環境になっていくと感じています。

(町 長)

- ・できるだけ託児ができるようにしていますが、スペースの問題や保育士の数など、限界もあるかもしれません。皆さんの状況を判断する中で、講座にはできるだけ参加していただきたいと思っています。

(会 場)

- ・以前、「町長と語る会」で、中学校でバレーボールを続けたいという話があり、その方達は県大会に行くぐらい熱心に取り組んでいましたが、続けることができませんでした。今の中学1年の子達も、小学校から3名行きましたが、部活動がなくて続けられませんでした。部活動について、子どもが減っていく中で、町としての方向性はありますか。

(町 長)

- ・今までは先生方も多く、色々な部活動を見ることができましたが、それが難しくなり、廃止せざるを得ない現実があります。社会体育でチームを作り、地域の皆さんにコーチをしていただいて中体連へ出るということが可能になってきています。学校単位で全てを解決するには限界があり、行政としては、そういった取組に対して支援をしていきたいと思っています。

(会 場)

- ・イオンが閉店して更地になっています。あそこにみんなが集まって何かできるような施

設を作っていたきたいと思います。

(町 長)

- ・イオンの建設コンセプトは、地域との関わり合いを持った店舗にしていきたい、というものです。イオンの方針として、店舗の中に地域の皆さんが集えるようなスペースを作るということを持っていただいていますので、その内容については、検討したいと思います。

(パネリスト)

- ・開発や居場所作りをしているのは、南小学区で、北小学区の子達が行きにくい。学区外は、子どもだけで行ってはいけないと言っているのので、北小エリアにも居場所作りをしていただくか、学区に関係なく、北小の子達もイオンまでは行っていい、となると行きやすくなります。

(教育長)

- ・いつも行かないエリアに子どもだけで行って、事故に遭ってはいけないということだと思います。どんな背景があるのかも含めて、ニーズや要望等をお聞きして、学校側も考えていけばいいと思います。

(町 長)

- ・子どもの安全が第一ですから、安全確保をして、ルールを守る中で町の施設を利用できるよう、教育委員会で学校と協議してもらおうようにします。
- ・子どもを産み、育てやすいまちづくりは、この町の大きな課題であり、目指すところだと思っています。引き続き行政としても精一杯力を入れていきますが、行政だけでは限界がありますので、地域の皆さんのご協力をいただきながら、子ども達を見守っていくことが大切だと思っています。会場の皆さんも含めて、子ども達の健やかな成長のために、ご協力をいただければありがたいと思います。